

記載例

農地所有適格法人報告書

(令和〇〇年 4 月 1 日 ~ 令和〇〇年 3 月 31 日)

法人の事業年度を記載してください。

令和〇〇年〇〇月〇〇日

蓮田市農業委員会会長 様

主たる事務所の所在地 蓮田市大字黒浜 2799 番地

名称及び代表者氏名 株式会社 〇〇〇〇
代表取締役 〇〇〇〇
電話番号 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
(e-mail)

下記のとおり農地法第6条第1項の規定に基づき報告します。

記

1 法人の概要

法人の名称及び代表者の氏名	株式会社 〇〇〇〇 代表取締役 〇〇〇〇		
主たる事務所の所在地	蓮田市大字黒浜 2 7 9 9 番地		
経営面積（ha）	所有農地の有無	有 ・ 無	
	田	5 . 0	複数の市町村に経営地がある場合は、すべてを合計した面積を記載してください。
	畑	1 . 5	
	採草放牧地		
法人形態	株式会社		

2 農地法第2条第3項第1号関係

(1) 事業の種類

農業以外の事業を詳しく記載してください。

区分	農業		左記農業に該当しない 事業の内容
	生産する農畜産物	関連事業等の内容	
実績	米・麦・大豆	加工・販売	造園
翌事業年度の計画	米・麦・大豆	加工・販売・農作業受委託	造園

農畜産物のうち、粗収益の50%を超えると認められるものの名称を記載してください。50%を超えない場合には、多いものから順に3つ名称を記載してください。

「生産する農畜産物」と「関連事業」の売り上げを記載してください。農業の売上高（農業関連事業含む）が、総売上高の過半を超えている必要があります。

(2) 売上高

年度	農業	左記農業に該当しない事業
報告対象年度の2年前（実績）	14,123,456円	512,345円
報告対象年度の1年前（実績）	14,123,456円	512,345円
報告対象年度（実績）	15,123,456円	512,345円
翌事業年度の計画	16,000,000円	500,000円

3 農地法第2条第3項第2号関係

構成員全ての状況

(1) 農業関係者（権利提供者、常時従事者、農作業委託者、農地中間管理機構、地方公共団体、農業協同組合、投資円滑化法に基づく承認会社等）

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等	在留資格又は特別永住者	議決権の数	構成員が個人の場合は以下のいずれかの状況				
					農地等の提供面積（㎡）		農業への年間従事日数		農作業委託の内容
					権利の種類	面積	直近実績	翌事業年度の計画	
〇〇 〇〇	〇〇〇〇	日本		50	賃借権	15,000	250	250	
〇〇 〇〇	〇〇〇〇	日本		30			150	150	
〇〇 〇〇	〇〇〇〇	中国	経営	10			150	150	
構成員の全て（議決権の有無にかかわらず）の状況について記載してください。									

議決権の数の合計

90

農業関係者の議決権の割合

90%

農業関係者の有する議決権の合計が、総議決権の過半である必要があります。

その法人の行う農業に必要な年間総労働日数： 550 日

表の中の農業への年間従事日数（構成員全員）の合計を記載してください。

(2) 農業関係者以外の者 ((1) 以外の者)

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等	在留資格又は 特別永住者	議決権の数
〇〇 〇〇	〇〇〇〇	日本		1 0

議決権の数の合計

1 0

関連事業者の議決権の割合

10%

(留意事項)

構成員であることを証する書面として、組合員名簿又は株主名簿の写しを添付してください。

なお、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法（平成 14 年法律第 52 号）第 5 条に規定する承認会社を構成員とする農地所有適格法人である場合には、「その構成員が承認会社であることを証する書面」及び「その構成員の株主名簿の写し」を添付してください。

4 農地法第2条第3項第3号関係

(1) 理事、取締役又は業務を執行する社員全ての農業への従事状況

氏名	住所	国籍等	在留資格 又は特別 永住者	役職	農業への年間従事 日数		必要な農作業への 年間従事日数	
					直近実績	翌事業年 度の計画	直近実績	翌事業年 度の計画
〇〇 〇〇	〇〇〇〇	日本		代表取締役	250	250	200	200
〇〇 〇〇	〇〇〇〇	日本		取締役	150	150	150	150

役員等個人の従事状況を記載してください。

・ 役員の過半が、法人の行う農業に常時従事する構成員（原則年間 150 日以上）であること

・ 役員又は重要な使用人の 1 人以上が、法人の行う農業に必要な農作業に従事（原則年間 60 日以上）すること

上記の要件を満たしていることが必要です。

「農業」とは農作業の他、生産にかかわる労務管理や農産物の販売、営業および市場開拓等を含みます。

「農作業」とは農産物を生産するのに必要となる根幹的な作業（耕うん、播種、施肥、病虫害防除、水管理等）を指します。

(2) 重要な使用人の農業への従事状況

氏名	住所	国籍等	在留資格 又は特別 永住者	役職	農業への年間従事 日数		必要な農作業への 年間従事日数	
					直近実績	翌事業年 度の計画	直近実績	翌事業年 度の計画

（1）の理事等のうち、法人の農業に従事する者（原則年間 150 日以上）であって、かつ、必要な農作業に農地法施行規則第 8 条に規定する日数（原則年間 60 日）以上従事する者がいない場合にのみ記載してください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--

(記載要領)

1 「農業」には、以下に掲げる「関連事業等」を含み、また、農作業のほか、労務管理や市場開拓等も含まれます。

(1) その法人が行う農業に関連する次に掲げる事業

ア 農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工

イ 農畜産物若しくは林産物を変換して得られる電気又は農畜産物若しくは林産物を熱源とする熱の供給

ウ 農畜産物の貯蔵、運搬又は販売

エ 農業生産に必要な資材の製造

オ 農作業の受託

カ 農村滞在型余暇活動に利用される施設の設置及び運営並びに農村滞在型余暇活動を行う者を宿泊させること等農村滞在型余暇活動に必要な役務の提供

キ 農地に支柱を立てて設置する太陽光を電気に変換する設備の下で耕作を行う場合における当該設備による電気の供給

(2) 農業と併せ行う林業

(3) 農事組合法人が行う共同利用施設の設置又は農作業の共同化に関する事業

2 「2 (1) 事業の種類」の「生産する農畜産物」欄には、法人の生産する農畜産物のうち、粗収益の 50%を超えると認められるものの名称を記載してください。なお、いずれの農畜産物の粗収益も 50%を超えない場合には、粗収益の多いものから順に 3 つの農畜産物の名称を記載してください。

3 「2 (2) 売上高」の「農業」欄には、法人の行う耕作又は養畜の事業及び関連事業等の売上高の合計を記載し、それ以外の事業の売上高については、「左記農業に該当しない事業」欄に記載してください。

4 「3 (1) 農業関係者」には、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法第 5 条に規定する承認会社が法人の構成員に含まれる場合には、その承認会社の株主の氏名又は名称及び株主ごとの議決権の数を記載してください。

ここで、複数の承認会社が構成員となっている法人にあつては、承認会社ごとに区分して株主の状況を記載してください。

5 農地中間管理機構を通じて法人に農地等を提供している者が法人の構成員となっている場合、「3 (1) 農業関係者」の「農地等の提供面積 (㎡)」の「面積」欄には、その構成員が農地中間管理機構に使用貸借による権利又は賃借権を設定している農地等のうち、当該農地中間管理機構が当該法人に使用貸借による権利又は賃借権を設定している農地等の面積を記載してください。

6 2、3 及び 4 の翌事業年度の計画の欄は、報告に係る事業年度の翌年度の計画を記載してください。

7 2 の翌事業年度の計画、3 の住所又は主たる事務所の所在地、国籍等及び翌事業年度の計画並びに 4 の国籍等及び翌事業年度の計画の各欄については、農地を所有する農地所有適格法人のみ記載してください（ただし、3 の住所又は主たる事務所の所在地及び国籍等の各欄については、総株主の議決権の 100 分の 5 以上を有する株主又は出資の総額の 100 分の 5 以上に相当する出資をしている者に限る。）。

国籍等は、住民基本台帳法（昭和 42 年法律第 81 号）第 30 条の 45 に規定する国籍等（日本国籍の場合は、「日本」）を記載するとともに、中長期在留者にあつては在留資格、特別永住者にあつてはその旨を併せて記載してください。法人にあつては、その設立に当たって準拠した法令を制定した国（内国法人の場合は、「日本」）を記載してください。

なお、4の（2）については、4の（1）の理事等のうち、法人の農業に従事する者（原則年間150日以上）であって、かつ、必要な農作業に農地法施行規則第8条に規定する日数（原則年間60日）以上従事する者がいない場合にのみ記載してください。